

時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第 110 号

平成24年 9月20日

(社) 栃木県幼稚園連合会

〒320-0033 宇都宮市本町12-11 栃木会館2階
☎028(622)2821 FAX 028(622)2816
●編集人/馬場章信 ●発行人/石嶋 勇
■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



第59回 栃木県幼稚園教育研究大会



平成二十四年七月二十五日～二十六日、栃木県総合文化センターと宇都宮市内各会場において「広く、深く、ていねいに保育の質を考える」～保育現場の視点を大切にする研修を進めよう」という大会テーマのもと、県内百七十三園、千三百八十五名の参加者を集めて本大会が開催された。

一日目は式典と講演会、二日目は十

七の分科会に分かれて研究・研修に取り組んだ。

式典

主催者挨拶 (要約)

栃幼連理事長 石嶋 勇

二日間を通じて、個々のスキルアップを図り、栃木県の幼児教育の益々の充実を実現したい。今、国では政治的に大きな動きがある。三年前、総合こども園が浮上したが、ここに至るまで全く予断を許さない状況になった。政治は政治として、私たちは幼児教育の現場で保護者と向き合いながらしっかりと子どもたちの教育・保育に取り組むことを心からお願ひしたい。



昨年、東日本大震災による大きな苦しみがあった。そのことは忘れようと思っ

ても忘れられないし、忘れてはならない。隣の福島県においては、原発事故の放射能とこれから二十年、三十年と闘っていかなくてはならない。昨年は、教職員各位、保護者各位から二十万円もの義捐金をお預かりし、全日本私立幼稚園連合会を通じて被災県に届けていただいた。今後は、特に福島県の原因事故被災園を中心に支援を続けて行きたい。ご協力を願いたい。

来賓祝辞

本大会に際し、県から福田富一知事、県議会を代表して五月女裕久副議長、開催地宇都宮を代表して高橋利幸子とも部長、また県教育委員

会から齋藤宏夫学校教育課長、県経営管理部より永井茂明文書事課長、幼児教育センターより大塚千枝子センター長に來賓としてご臨席いただき、祝辞をいただいた。



表彰

受賞おめでとうございます

● 栃幼連 幼稚園教育功労者表彰

- 幼稚園教育振興功労者 (敬称略)
 - 木村 尚史 (しらのぎ)
 - 酒井 精一 (吹上)
 - 戸田 千ヨ (すぎのこ)
- 幼稚園教育研究功労者 (敬称略)
 - 三浦 静子 (風と緑の)

● 栃幼連 永年勤続表彰

- 五十年表彰一名 四十年表彰 三名
- 三十年表彰八名 二十年表彰十五名
- 十年表彰五十七名

講演

「さあ、子どもと共に生きよう!!」
「つたえよう、手のぬくもりを」

文科省指定小学校音楽教科書編集者

小宮路 敏氏

小宮路先生は長年にわたり、小学校音楽教科書編集の傍ら、教育セミナー「牧心塾」の創設者として、日本全国の教育者に向けて数多くの講演会を開催されている。明るく元気な先生のパワーによって会場いっぱい参加者は、いろいろな歌を大きな声で歌い、時に笑い、時に涙しながら、「本気になって人を喜ばせることが人生の喜びである」という小宮路先生のメッセージをしっかりと受け止めた。

アンケートにも「講演を聞いて、どうしても更には子どもたちが心から楽しいと思ってくれる保育を実践できるか考えてみたい」というような、手応えの感じられる反響が多くなりました。



保育者の連携を生かした保育の実践と評価 (46名)

助言者 高柳 恭子(宇都宮共和国准教授)
 コーディネーター 高根沢伸友(宇大附属幼稚園教諭)



参加者の声
 保育者の連携の大切さを改めて感じることができた。職員間の信頼関係を築き、質のよい保育を目指していきたい。

3分科会

保育者への心の援助(メンタルヘルス) (59名)

助言者 丸山 隆(栃木県連合教育会相談部長)
 コーディネーター 小堀 泉(氏家幼稚園園長)



参加者の声
 普段からの園長先生との連携が、トラブル発生時や心のエネルギー低下時に重要であると理解できた。

4分科会

心の育ちと保育 (93名)

助言者 日吉佳代子(宇都宮共和国准教授)
 コーディネーター 加藤みどり(真岡さくら幼稚園園長)



参加者の声
 日吉先生のお話(実例)が一番心に残った。当たり前のことだが、子どもの気持ちを受容する大切さを改めて実感した。

5分科会

特別支援教育【上級】 (56名)

助言者 野呂 文行(筑波大学准教授)
 コーディネーター 斎藤 佳子(しずむでら幼稚園園長)



参加者の声
 インクルーシブ保育は障害を持つ子どもたちだけではなく、その他の子どもたちにとっても学ぶことができると感じた。

6分科会

表現の豊かな育ち (99名)

助言者 富田 英也(白鷗大学教授)
 コーディネーター 岡田 幾子(鹿沼みどり幼稚園教諭)



参加者の声
 ただ子どもから出るものを待つだけでなく、いかに子どもの表現を上手に引き出せるか、環境設定や声掛け、その子を「認める事」の大切さを知ることができた。

7分科会

第59回 2日目 栃木県幼稚園教育研究大会

21世紀を担っていく子どもたちが、瞳きらめく数々の体験を通じて豊かな心を育み、生きる力の基礎を培っていただけるよう、2日目は、17の分科会に分かれて研究・研修にあたった。

各分科会の問題提起者と会場は下記のとおり。

● 保育内容研究部門

分科会	問題提起者	会場
1	萩原 京子(那須塩原市立塩原幼稚園教諭) 石井 友佳(明星館幼稚園教諭)	コンセール 2F・アイリスホール
2	矢口久美子(ひまわり幼稚園教諭) 荒川美和子(石橋幼稚園教諭)	二荒山会館 2F・鶴の間
3	小平 享子(宇大附属幼稚園教諭) 鈴木 百恵(虹ヶ丘幼稚園主任)	県総合文化センター 3F・第3会議室
4	岡本 純世(認定こども園すみれ幼稚園副園長) 饗庭 百子(氏家幼稚園教務主任)	コンセール 1F・小ホール
5	若林 美穂(真岡ふたば幼稚園教諭) 前橋真由美(せんだん幼稚園教諭)	県総合文化センター 3F・第1会議室
6	相馬 美樹(野ばら幼稚園教諭) 田村 美和(野ばら幼稚園教諭)	パーティ 3F・研修室302
7	田野井綾子(晃望台幼稚園教諭) 古川 清美(清滝寺幼稚園教諭)	コンセール 1F・大ホール
8	高橋 麻紀(さくらが丘幼稚園主任) 福田 瑠美(しらゆり幼稚園主任)	ホテルニューイタヤ
9	井上みどり(旭幼稚園副園長) 鈴木 典子(山辺幼稚園副園長)	二荒山会館 中2F・松竹梅の間
10	須賀 友美(洗心幼稚園教諭) 石黒 恵(佐野たちばな幼稚園教諭)	県総合文化センター 3F・第4会議室
11	海老原美智子(みのり幼稚園教諭) 蓮見 祥子(第二薬師寺幼稚園教諭)	パーティ 3F・研修室301

● 講座部門

分科会	会場
12	二荒山会館
13	県総合文化センター
14	ろまんちっく村
15	とちぎ青少年センター

● 免許更新、新採研

分科会	会場
16	作新学院幼稚園
17	栃木県総合教育センター

保育と食育 (79名)

助言者 高橋 美保(白鷗大学教授)
 コーディネーター 栗田 英子(黒羽幼稚園園長)



参加者の声
 お昼のお弁当の食材のビンゴゲームがおもしろかった。子どもと一緒に楽しめそうだから食育にもつながっていくと思った。

1分科会

子どもたちのやさしさや思いやりの育ち (93名)

助言者 鈴木 智恵(栃木県立盲学校教諭 前 栃木県幼児教育センター副主幹)
 コーディネーター 佐藤麻矢子(野ばら幼稚園園長)



参加者の声
 思いやりや優しさは目に見える物ではない。だからこそ教師がその思わず出た優しさを見逃さずにそこを認め意識してあげることが大事だと改めて気付くことができた。

2分科会

特別支援教育 [基礎講座・初級] (53名)

助言者 福田 伸(栃木県立のざわ特別支援学校主幹教諭)
 間宮 克弘(栃木県立富屋特別支援学校副主幹)
コーディネーター 大嶋 裕(今市中央幼稚園副園長)
パネラー 富永由紀子(日光市立野口小学校教諭) 手塚 良子(日光市健康課保健師)
 五十嵐市郎(宇大附属幼稚園副園長) 渡邊 明子(今市中央幼稚園教諭)



参加者の声
 担任の役割、全ての子を普通にするのではなくその子にあった接し方をすると
 という言葉が心に残った。

13分科会

子どもの思いを活かす園行事 (75名)

助言者 加藤千佐子(作新学院大学女子短期大学部教授)
コーディネーター 山荷フサ子(作新学院幼稚園教頭)



参加者の声
 行事に取りかかる前に、どれだけ子どもの思いを出させたか、子どものコミュニケーション、つづやきを受け止めるということの大切さを改めて感じた。

8分科会

身近な自然環境への関わり方・楽しみ方 (50名)

助言者 桂木 奈巳(宇都宮共和大学専任講師)
コーディネーター 井上 智賀(旭幼稚園園長)



参加者の声
 人間も自然の一部、地球に生きる生物のひとつという根源的なことに気づき、共生することに目を向ける機会となる講座であった。

14分科会

共感し合える保育者と保護者の関係づくり、家庭支援の在り方 (78名)

助言者 吉澤佐知子(足利市こども課主査)
コーディネーター 栗子 佳子(矢場川幼稚園園長)



参加者の声
 助言者の「子どもの不利益にならないように！」というコメントが印象的だった。たくさんさんの愛を子に与えるために、親支援がある。自分のできる役割でがんばりたい。

9分科会

子どものリズムダンス~フィットネスプログラムから (54名)

助言者 小野塚圭子(日本子どもフィットネス協会インストラクター)
コーディネーター 小野塚 聡(おもちゃのまち幼稚園園長)



参加者の声
 ダンスが苦手と不安だったが、基本の動作から表現のバリエーションを広げる方法を学んだので、運動会や発表会に活かしていきたい。

15分科会

幼稚園における地域の子育て支援のあり方 (46名)

助言者 松村 和子(文京学院大学大学院教授)
コーディネーター 高瀬 恵(佐野みのり幼稚園園長)



参加者の声
 「子育て支援は保育サービスではない」「保護者のニーズを知る」「園職員全員が支援者である自覚」という言葉に考えさせられた。

10分科会

03.

免許状更新講習 (74名)

講師 小林 研介(呑竜幼稚園園長)
コーディネーター 大根田紀子(作新学院幼稚園主任)



16分科会

2歳児の発達と満3歳児保育の在り方 (69名)

助言者 塩谷 香(東京成徳大学教授)
コーディネーター 小倉 庸寛(愛泉幼稚園副園長)



参加者の声
 2歳保育と3歳保育の違いを理解し、子どもの様子や気持ちの見極めが大切であることに気づき、これまで感じた悩みも少し解消できた。

11分科会

新規採用幼稚園教諭研修 (209名)

全体会：高木 恵美(栃木県幼児教育センター副主幹)
 ワークショップ：添谷元良・旭山 久・小林乙伸・早乙女陽一
 渡邊紀子・佐藤孔之(栃木県総合教育センター生涯学習部社会教育主事)
 演習：各地区新採教諭研修指導者



(詳細はP.6)

17分科会

特別支援教育 [中級] (発達障害の子の感覚あそび・運動あそび) (67名)

助言者 福田恵美子(山形県立保健医療大学教授・リズム園顧問)
コーディネーター 大中 清見(法得幼稚園園長)



参加者の声
 無理にやらせようと力を入れるのではなく、「その子」にとって楽しい気持ちを引き出したり時には待つことの大切さが分かった。

12分科会

研修会だより

第一回 保育テクニカル講座

期日 平成二十四年六月十一日(月)
 午後二時三十分～四時三十分
会場 コンセーレ(大ホール)
内容 「バルーンアートを楽しもう」
講師 南小百合氏
参加 百二十九名

ビデオ 「ももたろっ」のショーで、
 始まった第一回目の講座は、
 講師の南先生が宇都宮市で幼
 稚園教諭をして
 いたこともあ
 り、元氣とテン
 ポと驚きがあ
 り、最初から最
 後まで受講者の
 目が興味と感動
 で輝くものとな
 った。



最初のバルーン
 ショーでは、目の前で、次から次
 にバルーンがいろいろな形に変化し
 ていく様子に受講者はくぎ付け。鬼
 などのユニークな作品が登場した
 り、巨大なバルーンに講師が入った
 りするなど、驚くような仕掛けやテ
 クニクが披露され、見ているだけ
 で十分楽しませてくれた。

その後、全員でバルーンアートに
 挑戦し、ふくらませ方や結び方、ひ
 ねり方など、基本的なことから丁寧
 に教えていただいた。実際に、犬や
 ハート、剣などの作品を作りながら
 コツを学び、わからない人には直接

一対一での指導
 が行われたり、
 割れにくいバル
 ーンが用意され
 たりと、とても
 親切で、初めて
 バルーンを持つ
 受講者にもわか
 りやすい内容だ
 った。



終始、笑顔と笑い声の絶えない和
 やかなムードで進められ、短い時間
 の中で、バルーンに必要な空気量の
 や長さのバランス、中心の見つけ方、
 床に置く大きな作品の作り方など、
 これからバルーンアートをしていく
 上で必要な知識や技術をたくさん学
 ぶことができ、有意義な研修となっ
 った。

設置者・園長研修会

ビデオ 石嶋勇理
 事後、副理
 の後、副理
 事長石川均氏の柘
 木県知事表彰(県
 各種功労者表彰)
 受賞を祝い記念品
 授与が行われた。



その後、経営研究委員長荒居養雄氏
 の趣旨説明の後、研修会を行った。

講師 獨協医科大学 Rセンター
 主任 高橋 克彦氏

ビデオ 原発事故
 による放射
 線の健康リ
 スクの解説があ
 った。科学的事実と
 ポリシーを区別し
 て判断し、双方向
 で理解する事が必要。幼稚園の経営
 者である私たちは、日常での放射線
 防護の方法について正しく理解し、
 保護者にきちんと説明できるように
 しておく事が大切。



講師 セレンディピティ 代表
 メンタルトレーナー
 浅見 広明氏

ビデオ 「リーダー
 シップとは、感情的
 な結びつきによっ
 て人々をヤル気に
 させ、刺激するこ
 と」というのが新
 しい考え方。リーダーが最初にやる
 事は、組織のありたい姿と価値観の
 明確化。園長は、どういった幼稚園
 になりたいかというはっきりしたビジ
 ョンを持ち、共に同じ方向性に向か
 っていくことが大切である。



青年部研修会

六月二十二日にホテルニューイタ
 ヤにて柘幼連青年部研修会が開催さ
 れた。テーマ「子ども・子育ての未



して講話をいただいた。
 東日本大震災、原発事故に伴い福
 島県の人口減少は進んでいる。少子
 化による人口減少もあるが、市町村
 によってはその人口が数年前倒しに
 なってしまった。福島県で起きてい
 る現実を五年十年以内の日本の姿
 ともおっしゃっていた。

続いて新シ
 ステムの内容、
 給付の全体像、
 新たな制度に
 おける利用手
 続きなどのお
 話をいただいた。

青年部員は、
 後継者として
 常日頃からア
 ンテナを張っ
 て色々な情報
 を集め、それ
 を理解しなく
 てはならない。
 正確な情報を
 掴むという意
 味で、とても
 タイムリーな
 研修内容だっ
 た。



来を考える」と
 と題して福
 島県で認定
 こども園を
 運営されて
 いるまゆみ
 幼稚園園長、
 古渡一秀先
 生をお招き

第一回 保育セオリー講座

日時 平成二十四年七月十七日(月)
午後二時三十分～四時三十分
会場 栃木県総合教育センター
内容 「子どもが輝く保育」
～子どもの発達や学びの連続性を踏まえた就学前教育～

講師 ソニー教育財団幼児教育支援事業
主査 高木恭子氏

参加 百五十四名

ビデオ

幼稚園は、子どもたちが生きる力や学びの基礎を身につける大切な教育の場であることを再認識できる講座だった。さらに、幼小連携は、就学したばかりの「困っている子ども」のために必要であり、子どもが輝くために、私たちにはできることがもっとたくさんあることを教わった。



就学前教育の4つの柱「カリキュラム」「交流活動」「教諭間の連携」「保護者の理解・協力」を順に説明いただき、スクリーンで実際に楽しく行われている幼児・児童の交流例を具体的に紹介してもらったり、連携をとるにはまず挨拶から、と、手順を教わったり、保護者の協力を得るためには情報を発信すると同時に、聞く機会も取り入れる重要性を教わったり、受講者は、自園の活動を振り返ると同時に、これからすぐにできる活動内容を得られたため、取り組みたくなる意欲も高まる機会にな

った。
子どもたちを安心して小学校へ送り出すために、幼児教育と小学校教育の違いと良さを知っておくことがとても大切であり、しっかりと視点を持って、明日からでも取り組むことができるのは私たちなのだ、と学んだ。

栃連連スクールバス安全運転講習会

日時 平成二十四年七月二十五日(水)
会場 二荒山会館(鶴・亀の間)
内容 スクールバスの交通安全教育
講師 宇都宮中央警察署交通総務課長
警部 瀬端英彦氏
事業部輸送部
課長補佐 糸井宏文氏

ビデオ

参加 百八十六名
警部 瀬端氏から、ドライバーブレコダーの事故映像を交えた講話をいただいた。

また、今回は関東バス総合サービス事業部 糸井氏より、乗務員としての心構え、ゆとりある出勤、車両点検、運転は三つの動作の繰り返し
①認知・②判断・③操作、安心感を与える運転操作とは、送迎ルートでの確認事項について、事故防止対策、苦情・問い合わせの事例等、詳しく説明があり、事故防止につながる研修となった。



第二十七回 全私幼連関東地区教員研修 神奈川大会

期日 平成二十四年八月一・二日
会場 パシフィコ横浜・国立大ホール(横浜市)他

ビデオ

関東地区教員研修大会が、パシフィコ横浜・国立大ホールをメイン会場に約三千三百名を超える教員が集まり開催された。開会式終了後、神奈川フィルハーモニー管弦楽団による「音を音楽を保育の場」と題した二部構成のコンサートが行われた。二日目は二十五のフォーラムに分かれ研修が行われた。第十フォーラム「子どもの思いを活かす園行事」と、第十三フォーラム「共感し合える保育者と保護者の関係づくり、家庭支援の在り方」の二フォーラムを栃木県の先生方が担当した。厳しい暑さの中、お骨折りにいただいたコディネーター・問題提起者そして今年度から導入された「ほいくの宝箱」に携わっていたいただいた先生方へ敬意を表したい。



就職説明会

期日 平成二十四年七月十五日(日)
場所 マロニエプラザ大展示場

参加状況

参加園数 百二十二園
参加者数 四百四十三名
参加者内訳
県内学生 三百五十六名
県外学生 七十九名
一般 八名

今年もまた恒例の栃連連主催の就職説明会が開催された。多くの園が参加する中、幼稚園教諭を希望する多くの学生たちが開催時間前から大勢集まっていた。開場と同時に学生たちがそれぞれの関心のある幼稚園の席へ向かい、募集状況や園の状況等を質問し、自己アピールしながら熱心にメモをする姿が見られ、より良い教諭を採用したい幼稚園側との熱心な話し合いが盛会に行われた。





新規採用幼稚園教諭
宿泊研修報告

新採宿泊研修実行委員長

金子 礎泰 (聖幼稚園 副園長)

今年も暑い夏に、熱い研修を八月九日(木)～十一日(土)にかけて、とちぎ海浜自然の家にて百九十四名の参加のもと新規採用幼稚園教諭宿泊研修が行われました。実行委員長二年目ということで昨年よりは余裕を持って先頭に立てたと思えます。以下研修のご報告を致します。

入所式の際、石嶋理事長先生より、励ましのお言葉を頂いたあと、最初の活動、グループワークトレーニングです。この活動では実行委員、講師、新採との全員参加型の全体活動です。実行委員、講師もグループに入っている活動、グループ内での結束を高める為に自分の長所を言っている自己紹介や研修期間内の約束事などを決めました。笑顔でいる、五分前行動など、グループ内の団結



力が見られました。



次の活動はこれも全体活動ですが「幼児教育者としての自分の磨き」と題して講師に「私プラン

ド塾SHINBER」校長の「ちとせ先生」によるセミナーです。ちとせ先生自身も幼稚園教諭の経験があるということ、新採先生もとても親近感を感じたようです。ちとせ先生からは「人は変わる。笑顔は人を寄せ付けるなどちとせ先生から勇氣や自信をもらった新採の子も多いと思います。ちとせ先生も学生の頃いじめや、人間関係で悩んでいた時期もありましたが、それでも「私は変わった」というメッセージをもらった新採教諭の顔は少し変わったようにも見えました。もう一つの全体活動は「クレド作り」です。



自分はどんな先生になりたいか？その為にすべきことは何か？その目標を成功させるために行う行動をカードに書きます。そのカードは常に持ち歩き意識しながら日々目標に近づける為に行動する。クレドは徐々にレベルアップするものなので、自分の成長に合わせて変化していく。短時間でも理解は難しいので、スライドを使っている説明や実際に他の企業で使われているクレドの紹介をして少しでも理解してもらい自分の「クレド」を作成しました。

次に研修のメインである選択活動です。六種類の内容から二つ選択しての活動。どの活動でも共通して言えることです。この研修で学んだことが幼稚園教諭としての喜び、豊かな想像性を持つことができ



きる先生にならなりたいかなど願いを込めて我々も指導しました。アンケートでは「一つのこと」に集中できた、



「考え方が広がった」などの意見も多くありました。日常では気付かなかった事に多く気付けた研修になりました。最終日はグループ全員で力合わせての手遊びコンクールです。保育現場で使えるもの、年齢に応じたものを作るなどの点を意識しながら考えてもらいました。どのグループも時間の無い中でのチャレンジでしたが、とても素晴らしいものを見せていただきました。最後に毎年、新採の先生方のことを考えて指導して頂ける実行委員、講師の先生方、安心して我々が指導できる場を準備していただいた事務局の方、全員の方に感謝申し上げます。我々も自信に繋がると思いますが、仲間意識なども育ちます。参加された新採の先生方の成長を心から願っております。



第十七分科会

新規採用幼稚園教諭研修

七月二十六日に、栃木県幼稚園教育研究大会第十七分科会として、新規採用幼稚園教諭研修の第三日を行いました。

★ワークショップ
「コミュニケーション能力の向上を目指して」

午前中は、総合教育センター生涯学習部の職員を講師として、コミュニケーション能力の向上をテーマとしたワークショップを行いました。

相手の話を心で聴く「傾聴」や肯定的に物事を考える「リフレーミング」を実際に体験し、「コミュニケーションスキルの向上を目指しました。受講者は、「相手を受け入れることや心を寄せ話を聴くことを大切にしたい。」「温かい話し方や表情を心がけて、子どもや保護者と接したい。」などと研修を振り返っていました。



今後、保育や保護者懇談会などで実践したり、園内研修等で伝達したりして、研修の成果を十分に還元してほしいと思います。

★演習 「幼児理解」

午後は、「幼児理解」をテーマにビデオ視聴に基づく演習を行いました。

三歳児と五歳児の保育の様子を見比べながら、年齢による発達の違いや発達に応じた教師の援助に視点を当て、協議しました。受講者は、「子どもの行動には、必ずその年齢なりの思いがあることがわかった。」「年長で遊びが充実するためには、年少・年中での経験が大切だと気付いた。」など発達を見通した上で、



自分の保育や子どもの方を振り返り返るような感想が多く寄せられました。各地区から選ばれた指導助言の先生方の創意工夫を凝らしたグループ

幼・保・小連携研修
「幼・保・小連携の充実に向けて
くからたづくりと遊び」

七月二日に、幼稚園・保育所・小学校の教職員を対象に「幼・保・小連携研修」を行いました。講師は、山梨大学大学院教育学研究科教授の中村和彦先生です。幼児期にふさわしい運動とは、思わず体を動かしたくなる環境のもとで、自分から「やりたい」と思える遊びを繰り返して行うことであり、その中で、いろいろ

ろな体の動きが身に付いたり、運動量が増えたりするということを、データに基づき話してくださいました。受講者からは、「子どもが自ら遊びたくなるような環境の工夫をしたい。」「体を動かすことが楽しいと思えるように小学校でも子どものやりたい遊びを大切にしよう。」など、子どもの意欲を大切にしながら、指導法を見直そうとする意見が多くみられました。



家庭との連携を大切に、園全体で、幼児期の体づくりについて考えていけたらいいと思います。

「ご存じですか？」
「幼児期運動指針ガイドブック」



平成二十四年三月三十日に文部科学省幼児期運動指針策定委員会から「幼児期運動指針

ガイドブック」が全国の幼稚園・保育所等に配付されました。そこでは、幼児が自発的に取り組む様々な遊びを中心に、体を動かすことを通して、生涯にわたって心身ともに健康的に生きるための基盤を培うことが大切であるとされています。また「幼児は様々な遊びを中心に、毎日、合計六十分以上、楽しく体を動かすことが大切である」ことが明記されています。

当センターでは、「幼児期運動指針」に基づき、遊びや生活の中で大切にしたい体の動きなどを掲載したリーフレットを年度末に発行する予定です。

これからの研修

夏休み明けから秋にかけて実施する研修をお知らせします。

●トップセミナー

九月二十七日(木)

講話「幼稚園保育所における危機管理」

千葉大学ジェネラルサポーター

星 幸広先生

地震、竜巻等これまでの防災マニュアルでは対応が困難な災害や危険への備えが、幼稚園でも大きな課題となっています。実際に東日本大震災で被害を受けた幼稚園にかかわっている星先生が、幼稚園・保育所における危機管理について語ります！大切な幼児、職員を守り、安心安全な幼稚園の運営のための研修です。

●幼稚園・保育所等

パワーアップセミナー

十月三日(水)

講話「親学習プログラムについて」
演習「体験！親学習プログラム」
演習「地域に開かれた園づくりのアクションプランをつくらう」

学事だより

県文書学事課

平成二十四年度幼稚園財務関係調査の実施について

七月末から標記調査を対象の幼稚園において実施しています。調査内容は次のとおりです。

- ・学校法人の管理運営状況
- ・幼稚園の管理運営状況
- ・会計処理状況等

実施日時等の詳細については、調査対象となる幼稚園設置者宛てに通知しています。調査への御協力をお願いいたします。

また、今年度、調査対象外の幼稚園においても日常業務の再点検を行い、適正な管理運営に努めていただくようお願いいたします。

なお、点検の結果、園則変更、園地・園舎変更、理事・監事就任届等が未提出の場合には、早急に提出されるようお願いいたします。

各種届出書類について

●幼稚園運営費補助金交付申請書

- ・提出期限 十一月上旬
- ・平成二十四年度幼稚園運営費補助金（一般補助分）の内定については、十月末頃を予定しています。交付申請書の提出にあたっては、別途通知する内定通知に基づき提出願います。

●幼稚園教材費等補助金交付申請書

- ・提出期限 十月下旬
- ・幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金（特別補助分）関係書類

●特別支援教育

- 一 提出書類
 - ア 対象園児就園状況調査書
 - イ 対象園児担当・指導教職員に関する調査書
- ウ 対象園児である旨の判定調査書

●提出期限 十月二十六日（金）

- ※ウについては、身障者手帳、特別児童扶養手当証書、療育手帳、専門医の診断書、児童相談所の判定書のいずれかが必要となります。
- また、学級担任以外の教職員から特別な教育支援を受けている幼児が補助対象園児となりますので、御留意願います。

二 子育てランド事業

- 提出書類
 - ア 子育てランド事業実施計画書
 - イ 各事業における保護者等への案内通知（写）

●提出期限 十一月上旬

- 三 わんぱく保育推進事業
 - 提出書類
 - ア わんぱく保育推進事業実施計画書
 - イ 預かり保育実施記録
 - ウ 保護者等への案内通知（写）

●提出期限 十一月下旬

- ※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上提出願います。

平成二十四年十月

十二月までの事業予定

10月3日	※パワーアップセミナー
10月13日	第19回ピカピカの板木県
10月17日	保育セオリー講座
10月20日	資質向上選抜養成講座Ⅶ
10月22日	※スキルアップセミナー
10月22日	第28回全日私幼連設置者園長全国研修大会千葉
10月23日	公開保育研究会（宇大附属幼稚園）
10月26日	幼稚園教育振興の集い（益子町）
11月6日	※10年経験者研修
11月7日	全日私幼連関東地区代表者協議会茨城
11月10日	とちぎ教育振興大会
11月13日	保育テクニカル講座
11月30日	設置者・園長研修会
12月5日	全日私幼連PTA大会（東京）
12月8日	※保育を語る会
12月17日	保育セオリー講座
12月26日	新規採用幼稚園教諭研修（集合研修）
※は幼児教育センター事業	

訃報

●大田原市 ひかり幼稚園

第二ひかり幼稚園

名誉園長 黒田 俊雄 先生

平成二十四年八月二十日 逝去

●小山市 楠エンゼル幼稚園

理事長 小野瀬 楠雄 先生

平成二十四年九月七日 逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

今年の夏は、記録的な暑さでした。県内各地で真夏日、猛暑日が三十日近くあったようです。小さな子どもたちを預かる私たちにとっては熱中症対策などに取り組んだ夏でした。

そんな暑い夏に、私事ですが、今年二年目である新採宿泊研修の実行委員長をはじめ、八月二、三日に行われた関東地区教員研修神奈川大会で企画「ほいくの宝箱」の参加など、いろんな場面で携わることができました。神奈川大会では、新採宿泊研修の事を紹介しました。そんな意味でも今年の宿泊研修は例年よりも力が入った研修となりました。他県の先生方からは、「羨ましい」などの意見をいただきました。

昨今、幼稚園を取り巻く環境は決して良くありませんが、置かれている環境、特に私にとっては青年部という存在が大きいということを再認識できました。そんなときだからこそ、一致団結が必要不可欠です。そんなことを思ったとても、暑い夏でした。

（聖 幼稚園 金子 礎泰）